令和７年 11 月 27 日発行

『食の都庄内』旬だより

【大黒様のお歳夜】



お膳



お供えの様子





米炒り菓子と「まっか大根」

１　庄内地域に残る伝統行事「大黒様（だいこくさま）のお歳夜（おとしや）」

○　庄内地域では、毎年 12 月９日に「大黒様のお歳夜」という伝統行事が、今も多くの家庭で行われています。この行事は、豊作・商売繁盛・無病息災・子孫繁栄等を祈願して行われるもので、12 月９日には、大黒様が「妻を迎える日」「年を越す日」などのいわれがあります。

○　江戸時代後期（文化年間・1804 年～1818 年）の酒井家に仕える武家の記録には、「大黒様のお歳夜」についての記述があり、少なくとも 200 年以上続いている行事であるとされています。

○　この行事では、各家庭の床の間や神棚の近くに大黒様の掛け軸や御神像（ごしんぞう）を祀り、特別に作られるお膳と共に、象徴的な供え物の「まっか大根」や、米炒り（豆炒り）菓子、御神酒などをお供えします。「まっか大根」は、腹痛を起こしていた大黒様が二股の大根の片方をもらって腹痛が治まったという言い伝えからきているといわれています。

２　特別に作られるお膳

○　大黒様のお歳夜で特別に作られるお膳には、黒豆ご飯、焼き豆腐の田楽、黒豆なます、納豆汁などの豆づくしの料理や、ハタハタの田楽が出されます。

○　豆づくしの料理には、「家族がマメに暮らせるように」という願いが込められ、ハタハタの田楽は、「子孫繁栄」の願いが込められていると伝えられています。



庄内地域の納豆汁

○　納豆汁は、庄内地域の各地で栽培されている里芋の一種である「からとり芋」の茎を天日で干した「芋がら」が入っています。

出典：つるおかおうち御膳（山形県鶴岡市）
　　金井家年中行事（鶴岡市郷土資料館蔵）